

2 話し合いの手法

話し合いによって共通理解を創出する方法の一つとして、KJ法があります。

(1) KJ法のねらい

- 参加者の頭の中にあるイメージを図式的に構造化する。
- 参加者全員に課題に対する共通理解を作り出す。
- 感情的な議論や先入観、思い込みを排し、曖昧な部分を明確にしていく。

(2) KJ法の進め方

① テーマの決定

みんなの関心のある事項を話し合ってテーマを決める。もしくは、リーダーで誘導したい事項をテーマに設定する。

② ブレーンストーミング（省略しても可）

テーマに基づき思いつくまま自由に考えられることを全て出し合うまで話し合う。ただし、他人の意見を否定したり、批判したりしない。

③ カードづくり

テーマに係ることを各自、カードに1項目ずつ記入する。

誰が読んでもわかるよう具体的に記入し、あくまでも、1枚のカードには、1つの内容とする。

④ カードのグルーピング

各自、順番にカードを1枚ずつ読み上げ、内容の似たカード同士がまとまるようにテーブルの上に置いていき、全てのカードを読み上げる。

カードの内容を拡大解釈して無理にグルーピングしないようにする。自分が同一の内容だと思っても他の人がそうだと思わない場合は、グループの中には入れないようにする。

どこにも同じものがないカードは、1枚のまま置いておく。

⑤ 見出し付け

グループになったカードに、グループを代表する「見出し」をつける。

⑥ グルーピングの終了

③、④を繰り返しながら、大分類、中分類、小分類とグルーピングし、5~6の大分類に分ける。

⑦ グループ化したカードの配置

グループになったカードを模造紙の上に全体の関係を考えながら配置し、全てのカードが読み取れるようにグループごとにまとめてカードを貼り付ける。

大分類したグループごとの関係を考えて配置し、中分類、小分類の枠をマジック

で書きながら全てのカードが読めるようにカードを貼り付けること。

⑧ 問題の図式化

模造紙の上のカードを同じグループのものをまとめたり、関連グループや反対グループ、無関係なグループの関係がわかりやすいように図式化したりして、完成させる。全体の問題構造がわかりやすいように工夫することがポイントとなる。

(3) 必要な道具

カード (1人 10 枚以上), 模造紙 (グループに 2 枚), マジック・サインペン (5 色以上), のり, セロハンテープ

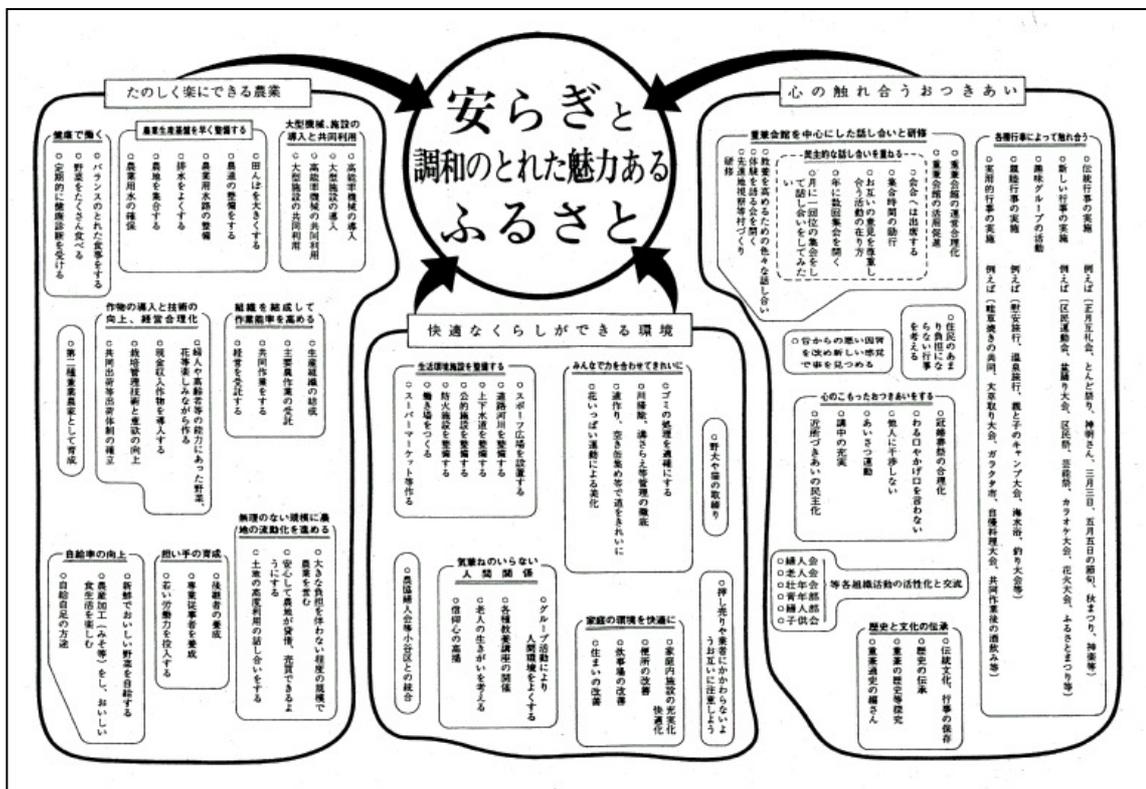


図 II-3 KJ 法による意見集約の例

((農) 重兼農場作成)